

### 3つのポリシー(国際共生学部国際共生学科)

<p>建学の理念</p>	<p>「公正な世界観にもとづき時代と社会の要請に応じていく実学」の教授研究を通して、「国際社会に貢献できる豊かな教養を備えた人材」を育成します。</p>
<p>大学の教育理念・方針</p>	<p>・言語を「コミュニケーション・ツール」として位置づけ、より実践的な言語教育を行います。          ・他国の言語・文化を修得・理解するレベルにとどまらず、日本語・日本文化の礎を踏まえ、自らの考えを自由に発信できるより高度で創造的なレベルでの言語運用能力の修得をめざします。          ・言語教育にとどまらず、平和な国際社会の構築に貢献しうる人材として必要な「国際学」「外国学」に関する国際教育に力を注ぎ、豊かな人間性に裏付けられたコミュニケーション力を培うための教養教育を重視します。</p>
<p>学部(学科)の人材養成目的</p>	<p>(国際共生学部 国際共生学科)          外国人教員を中心とした国際通用性の高い専門教育と全授業科目オールイングリッシュ履修による学修や、外国人留学生と日本人学生が肩を並べた共同学修を通じて、高度な英語実践力、異文化理解力、主体性を基盤とする地球市民としての資質や能力を養成することにより、予測困難な多文化共生時代において、新たな価値を創造する人材の育成を目的とします。</p>
<p>学位授与の方針(DP)</p>	<p>本学科の人材養成目的を達成するため、次に掲げる知識・技能などを身につけた者に、「学士(国際共生)」の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. グローバル社会の事象を理解し、対処するための教養と技能(知識・技能)              高度な英語コミュニケーション力を活かし、「人文科学」「社会科学」「ビジネス・経済学」などを中心とする幅広い教養を身につけ、国際共生社会の事象に対処することができる。</li> <li>2. 課題解決に必要な思考力・判断力・表現力(思考力・判断力・表現力)              国際共生社会における多角的かつ柔軟な思考力を身につけ、グローバル社会が抱える課題を発見し、解決に活かすことができる。</li> <li>3. グローバル市民としての姿勢(主体性、態度)              働く関心・意欲とグローバル市民としての責任感、ならびに自己実現に努め、生涯学び続ける姿勢を有し、多様性を尊重し協調しつつ活動することができる。</li> </ol>
<p>教育課程の編成・実施の方針(CP)</p>	<p>[教育課程の編成にかかる基本方針]          本学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・技能などを修得させるために、授業科目を体系的に編成し、開講します。          ・教養教育に関しては、専門教育科目の各授業科目における専門的知識に加え、思考・表現、課題認識、多角的な視点、実践力などの技能・スキル・思考法などを一体として教授します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育内容について             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) グローバル市民として、多様な文化、言語背景をもつ人々との協働を可能とする高度なコミュニケーション能力を養成します。</li> <li>(2) 自己実現のためのふりかえり、多文化社会について学ぶ意義や生涯学習の必要性についての探究をめざします。</li> <li>(3) 世界標準の授業をすべて英語で開講し、「Humanities(人文科学)」、「Social Sciences(社会科学)」、「Business &amp; Economics(ビジネス・経済学)」の3分野から、多角的に社会の課題を設定・探究するスキルの修得をめざします。</li> </ol> </li> <li>2. 教育方法について             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 入学から卒業まで、全てオールイングリッシュの授業により、英語で考え、英語で行動できる実践的かつ高度な英語運用能力を養成します。</li> <li>(2) コンテンツベースの授業やディスカッション、プレゼンテーション、プロジェクトなどのアクティブラーニング手法を多くの場面で取り入れた授業を展開し、主体性や課題解決能力などの養成をめざします。</li> <li>(3) アクティブラーニングの効果を最大限に引き出すため、各科目の学生を20人程度で設定し、学生同士の対話を容易とし、学力や学習意欲の向上を支援しやすい環境を整えます。</li> <li>(4) エクスペリエンシャルラーニングを通して、「分かる(知識)」と「できる(実践)」を統合させた学習環境を国内外で提供します。</li> <li>(5) クラスアドバイザー制度により、4年間の学修が順次的・発展的に実践できるように学修支援ならびに指導を行います。</li> </ol> </li> <li>3. 学修成果の評価について              学修成果の評価は、教員が各科目の学習到達目標にもとづいて実施する直接評価、および学生の主観的判断にもとづく間接評価を定期的に行います。             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 科目レベルにおいては、課題、試験レポート、授業への参加度、学生による授業評価などの観点から評価します。</li> <li>(2) プログラムレベルにおいては、4年次最終学期での履修科目「Capstone」の成果、TOEFLなどの英語外部試験の活用、インターンシップなどの実習先での評価のほか、eポートフォリオ、フォーカスグループインタビュー、意識調査、履修登録状況などを通して総合的に行います。</li> </ol> </li> </ol>

## 3つのポリシー(国際共生学部国際共生学科)

### 入学者受入れの方針(AP)

本学科の教育上の目的として定める人材を育成するため、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを踏まえ、「求める人材像」を次のとおり定め、高等学校での学習を通しての基礎的な知識として、英語力を中心とする基礎学力などをもとに選抜を行い、入学者を受け入れます。

#### 1. 求める人材像について

- 高等学校までの履修内容を通して、論理的に自分の意見を発信でき、とりわけ「英語」の学習において、「聞く・話す・読む・書く」の4技能の基礎的な内容を身につけた上で、
- (1) 高等学校での学習・活動を通しての基礎的な知識・技能や目的意識・意欲のある人
  - (2) グローバル社会が抱える諸課題の解決に向けた学力、積極的な姿勢や情熱を持つ人
  - (3) 国際理解や多文化共生を基盤とした国際的なコミュニケーションとしての英語力を身につけるとともに、国際的な場で活躍できる強い意志を持つ人
  - (4) 何事にも積極的に取り組めるチャレンジ精神を持つとともに、主体的に学修に取り組もうとする強い意欲を持つ人

#### 2. 評価方法について

上記のような学生を選抜するため、形態ごとに以下のような試験を行い、本学で学修するための基盤となる学力などについて評価します。

##### (1) 一般選抜

###### ア. 一般入試

###### ① 1科目型:

- ・個別学力検査(外国語)により評価します。また、本学の教育プログラムや海外留学で求められる語学力と思考力・判断力を備えた入学者を選抜する入試については、英語の資格・検定試験を活用するなど、多面的・総合的に評価します。[前期: S方式]
- ・個別学力検査(外国語)により評価します。[後期]

###### ② 2科目型:

個別学力検査(外国語、国語)により評価します。[前期: A方式]

###### ③ 3科目型:

個別学力検査(外国語)と大学入学共通テスト(国語、選択科目)により評価します。[前期: 共通テストプラス方式]

##### イ. 大学入学共通テスト利用入試

###### ① 3科目型:

大学入学共通テスト(英語、国語、選択科目の3科目)の得点により評価します。[前期/後期]

###### ② 5科目型:

大学入学共通テスト(英語、国語、地理歴史・公民、数学、理科の5科目)の得点により評価します。[前期]

##### (2) 学校推薦型選抜

###### ア. 公募制推薦入試

基礎学力検査として英語を課し、調査書等、学校長推薦書を総合して評価します。

##### (3) 特別型選抜

###### ア. グローバルチャレンジ入試

一定基準の英語力を有する者を出願資格として、書類選考、課題レポート、口頭試問(課題レポートに対するプレゼンテーション、質疑応答、面接)を総合して評価します。